



2005年6月26日 駒澤大学玉川グラウンド  
駒澤大学 3 - 2 愛知学院大学

【得点】( ) はアシスト  
[駒] 2分新川(柳崎)、18分東平、53分印出  
[愛] 35分、80分

【メンバー】  
GK 牧野利昭  
DF 塚本泰史、桑原 靖、小椋慶一、筑城和人  
MF 菊地光将( 67分八角剛史 )、新川真之介( 64分石井晃一 )、宮崎大志郎( 86分阿部琢久哉 )、柳崎祥兵( 57分最大輝 )  
FW 東平大佑( 61分赤尾直和 )、山下真太郎( 45分印出昌史 )  
【SUB】  
GK 岡部良行

[左上]ここ数試合で出場機会が増えた柳崎。定位置獲得なるか今後、目が離せない選手の一人だ(撮影・深松美里)

[上]今年で40回を記念した愛知学院大との定期戦。両チームが集合しての記念撮影

[右]3点目を決めた印出。写真のヘディングシュートは惜しくも枠を捉えることが出来なかった



## トレーニングマッチレポート

# KOMAZAWA UNIV. VS OMIYA Ardija

## 失われた「前線からのプレス」

総理大臣杯直前でも解消されない課題  
選手たちからも危機感を感じる言葉が漏れる

### 1本目基本フォーメーション

### 2本目基本フォーメーション

### 駒大の真骨頂に暗雲

オフ期間を利用して数々組まれた練習試合も、この大宮戦で最後となった。相手はJ1で中位のチームというところで、ボールを支配される時間帯が続いたのはやむを得なかったが、その中でもと守備に関しては健闘が光っていた。実際3本を通して相手に与えた決定機は、失点シーンを除き数えるほどで、体格で劣る相手でも、最後の場面で体を寄せたり、複数人で囲んだり、何とか耐えていた。この面に関しては大臣杯でも計算ができるだろう。

しかし攻撃面、及び前線からのプレスに関しては改善の余地がありそう。この日、得点シーンのみならず、この日の27分の竹内の1点のみ。しかも相手GKがミスしたスローインを拾って決めたものだ。相手のミスを逃さずに突いた点は評価できるが、それ以外では攻撃の形を作ることさえままならなかったのは懸念材料だろう。特に相手がフルメンバーだった1本目は、セットプレー以外では活路を見出せなかった。FWで出場した小林竜は、「FWだったのにシュートがなかった。次は自分で抜いて打つくらいまで改善しないと」と反省していた。

また前線からのプレスに関しては、牧野が「駒大の根幹にまで関わる問題」と豪語するほど深刻な状況のようだ。連動性がない。選手が動いたらパスルのようにハマっていかなきやならないのに、そういう動き出しがない(岡田コーチ)。

### 3本目基本フォーメーション

### 駒大の真骨頂に暗雲

駒大サッカーの真骨頂である前線からのプレスが機能しないようでは、効果的なアタックが仕掛けられないのも無理はない。行くタイミングや運動の動きを確認する(牧野)。もう一段階上を目指すためには、避けては通れない課題である。

しかしそんな戦士達を、大宮所属の駒大OBは温かく見守っている。GK安藤智安(96年度卒)が「僕らの頃はシステムもやり方も全く違ってて、全然違う印象を受けた。みんな動くしね」と語れば、MF斉藤雅人(97年度卒)は「僕らの頃はつなぐサッカーだったけど、縦に速いアグレッシブなサッカーをしていて。結果はいつも気にしているし、みんなの頑張っている姿が僕の励みにもなる」とコメントを寄せてくれた。

大臣杯初戦まであと1週間。前人未踏の4連覇に向けて、最高の準備をして大会に臨むことを願ってやまない。(遠藤雅之)

2005年6月29日 NTT・志木総合グラウンド  
1本目(45分)  
駒澤大学 0 - 1 大宮アルディージャ  
【得点】(宮) 38分  
駒澤大学  
GK 牧野利昭  
DF 塚本泰史、桑原 靖、廣井友信、筑城和人( 31分石井晃一 )  
MF 柳崎祥兵、新川真之介、最上大輝、宮崎大志郎  
FW 赤嶺真吾( 32分赤尾直和 )、小林竜樹

2本目(45分)  
駒澤大学 1 - 2 大宮アルディージャ  
【得点】(駒) 27分竹内  
(宮) 34分、37分  
駒澤大学  
GK 三栗寛士  
DF 安藤 謙、阿部琢久哉、小椋慶一、石井晃一  
MF 沼守宏樹、榊原浩一朗、鈴木寿毅、赤尾直和  
FW 島田祐輝、竹内 優

3本目(45分)  
駒澤大学 0 - 1 大宮アルディージャ  
【得点】(宮) 31分  
駒澤大学  
GK 山内達夫  
DF 湯川貴嗣、志田亮輔、五上直也、浅野浩一  
MF 八角剛史、新開健人( 28分小野里銀児 )、東平大佑、笹岡新伍  
FW 印出昌史、高崎寛之( 25分山下真太郎 )